

新型コロナウイルス抗体測定協議会 アドバイザー 児玉龍彦  
1月28日の協議会で説明した1月31日に発表予定の緊急対応の提言です。

-----

新型コロナウイルスの感染の急拡大に1月31日からの1週間の緊急の対応を提言します。  
2022年1月30日

(1) 31日からの1週間、高齢者、基礎疾患、妊娠中の方は外出、接触について最大限の注意と警戒を。

新型コロナウイルスの感染者数が未曾有の増大を示しています。オミクロン株といえども重症化を避けるため、31日月曜日からの1週間は、高齢者、基礎疾患、妊娠中の方は、極力、外出や接触を控えて感染機会を避けるように配慮をお願いします。

(2) 必要な方は積極的に検査を受けて、感染拡大を抑えてください。

このウイルスは無症状の人から広がる特徴があり、街の中での感染の広がりを抑えることが最も大事な感染拡大防護策です。周辺に陽性者の出た方、風邪気味の症状のある方、遠距離を移動される方、人との接触機会を減らせない方などは積極的に検査を受けて、感染拡大を抑えてください。

自治体においては無料検査を拡充し、国においては検査試薬・キット、機械・機材、人員の確保に、今週は特別の対応を進めてください。

(3) 子どもの感染を防ぎ、健康被害を防ぐ

先週の感染拡大では、幼稚園、保育園、学校での感染の拡大が非常に顕著です。子どもさんの感染者で高熱を呈する方がかなりおられ、一部で消化器症状も見られるなど、国で小児科の専門家による診療経過を集計し、対応策を明らかにすることが求められます。また、直ちに、全国の教育機関で、自治体、校医、養護の先生を含めて緊急の適切な対応策を立ててください。

(4) 陽性者のゲノム解析の情報の開示を

現在、日本ではオミクロン株の急増が見られますが、感染者のゲノム解析のデータから、沖縄や大阪、その他の地方で報告された株が東京でも確認されています。厚労省は、集計されたゲノム解析のデータを迅速に開示し、都道府県を超える感染拡大の状況を正確に提示すべきです。

抗体測定協議会での報告では、一部のPCRプライマーの働かないデルタ株が12月中旬から観察されており警戒が求められています。また、入国検疫において1割にデンマークなどで見られる新しいステルスオミクロンが確認されています。感染後の重篤化を予防する抗体カクテル薬はデルタ株には有効ですが、オミクロン株には違う薬が有効性が期待されます。

政府においてはゲノム解析を進めるとともに、自治体でも大学・研究機関と連携してゲノム解析を進めることが急務となっています。